鍵 磨き

回点検支援シス
期点検支援シス
隔診断システム
知システムの4
合わせたICT
に道路維持管理
を導入する。上
システムの使用
条、仕組み・体
言、オリエンタ
ルタンツは、シ
ステムの使用
体制の検討を行
検支援システム
の点検や町民の
で確認した道
を記録、データ
もので、システ
し住民参加型の
への利用も視
る。定期点検シ
5年に1回な
に実施する詳細
記録、帳票作成、
など行うも
の分析による長
画等への反映が
り、PDCAサ
る検討も可能
ともにスマート
スプレット端末

等で現場で記録・送信しクラウド上でデータ管理する。現場と事務所とのリアルタイム性に優れる上に、事務所で作成・管理していた書類等を効率よく管理できる等の利点がある。

また、遠隔診断システムは、巡回点検や定期点検で異常を確認した際に遠隔で診断や助言、緊急対応の指導等を行うもので、両点検支援システムでのリアルタイム性を利用し現場と役場等の相互で現場状況を確認でき、その場で行政的な判断や技術的判断、助言が可能となる。

さらに、異常検知システムは、道路監視カメラ等の映像を解析し、車両の急激な減速や回避行動から路上の異常状態の発生を検知し道路管理者に通報する。

今回の実証実験を通じ、上里町には、これまで紙ベースであった点検・維持管理をICT活用による効率化をはじめ、専門技術者によるバックアップ、管理記録の蓄積とその活用、職員等の教育などのメリットがあり、オリエンタルコンサルタンツには、現場に即した道路維持管理のあり方を知ることができる利点がある。

（午前）まで開かれる。日中韓防水シンポジウ

SUK社内検定スタート

超速硬化ウレタンスプレー施工 固有の高度技能へ

ダイフレックスなどウレタン建築材料メーカー3社と専門工事業者68社で組織するスプレーウレタン・ウレア工業会（丸島勝昭会長、略称・SUK）は、超速硬化ウレタンスプレー施工の社内検定認定を取得し、防水業界初の社内検定制度の本格運用を始めた。来年3月に13年度試験を実施する計画で、同月末には初の「超速硬化ウレタンスプレー施工主任技術者」が誕生する。

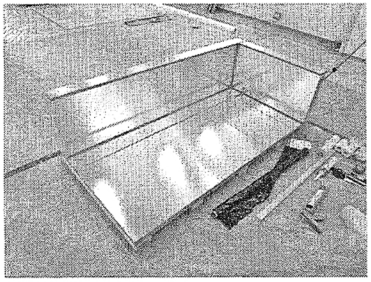
超速硬化ウレタンスプレー工法は、専用吹付け機を使い吹付けすることで高品質で高物性の塗膜を作り出す。塗膜防水は、他の防水に比べ作業者の技能によって防水性能が大きく左右される。特に同工法は瞬時に硬化する材料を吹付けて、所定の膜厚で均一、気泡やピンホールの無い防水層を形成するため、さらに高度な固有の技能が必要になる。建築防水に加え防食・塗装など新規市場も拡大しており、技能・技術の向上と社会的認知が急がれていた。

SUN社内検定では、電磁膜厚計による膜厚検査を採用。より精度の高い膜厚管理手法を確立していく。検定制度を運営することで全国に展開する会員の技能水準の統一と向上を図り、合格した技能者の認知度を高め、表彰制度などを通じて社会的地位向上に役立てたい考えだ。

社内検定は、事業主（事業団体）が雇用する労働者の有する職業能力を自ら検定することで、技能の振興に役立てるもの。SUKは10月24日付で厚生労働大臣の認定を取得した。11年3月現在で45職種が認定を受けているが、建築関係ではハウスメーカーなどの6検定にとどまる。技能検定と競合する検定などは認定の対象とならない。

SUK社内検定の受験資格は①技能検定防水施工のウレタンゴム系塗膜防水作業1級合格者又は2級合格者で2年以上の当該実務経験者②ウレタンゴム系塗膜防水作業以外の防水の1級合格者（アス、シートなど）で2年以上の実務経験者又は2級合格者で4年以上の実務経験者。1・2級技能士の技能レベルを超えた検定で、現行の技能検定とは競合しない新たな職種作業とされたため、厳しい認定基準をクリアした。

実技・学科試験問題は、SUKの社内検定準備委員会で独自に作成し、厚労省のチェックを受ける。13年度検定は来年3月5日に学科試験、3月6日～8日の3日間で実技試験を行う。44人の受験者を見込む。合格発表は3月30日。また14年度検定は7月中頃の予定で調整を進めている。



試験用の実技架台

戦略的パートナーシップ締結

BIM推進へグラフィソフト社と

日建設計

日建設計は21日、グラフィソフトSE（ハンガリー・ブダペスト、ビクター・バルコニーCEO）と、BIM推進のための戦略的パートナーシップ契約を締結した。契約は、グラフィソフトがつくるBIM（ビルディング・インフォメーション・モデル）ソフトに日建設計の設計ノウハウを取り込むもの。契約調印にはハンガリーのオルバーンヴィクトル首相の立会いのもと行われた＝写真。両社は「BIM Competence&Research Center」として、社内に専任チームを立ち上げる。

今回の戦略的パートナーシップ契約について、グラフィソフトは日建設計における設計プロセスを十分に理解し、BIMワークフローのよりスムーズな実施を支援する。日建設計におけるBIMの優先事項をグラフィソフトの製品ロードマップに適切に反映する。日建設計は日本とアジアにおけるBIMの促進のためのグラフィソフトの活動を支援する。契約期間は当初は2年間を予定してパートナーシップを結ぶ。11年から出向をはじめ、12年に担当室を設けた。今年は30%の設計事業のBIM化を進めた。弊社の建設設計のプラットフォームを育てていくことに価値がある。アジアまた世界的にも先導的なモデルを構築したい」と述べた。

今回の契約調印式は、建築CADソフトウェアメーカーとして世界最大級のハンガリー企業・グラフィソフト社と総合設

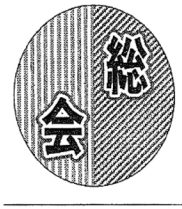
輝上海支店長は「企業理念や文化は勉強するにつれ浸透している。顧客にも徐々に伝わり、我々の強みになっている」と実感を話す。

中・高級市場では欧州メーカーが競合相手。劉

上海支店で現在、営業に当たるプロジェクトは約150件。成約に至るまで厳しい要求も出され、「（標準品以外の）オーダーメイドの形材を使わざるを得ないケースが10%くらいある」（同

日本建設産業職員労働組合協議会（植村芳輝議

に立った日建協政策企画局の中島秀夫氏は「本日状を知り、有意義な1日にしてほしい」と述べた。



組合（山﨑文治理事長）は14日、東京・文京区関

146人の計214人。

は、日程を1・5日間に増加。これまでの3回で

計事務所級の日本が互いのことを目タント業すことを館より重

BIMとれる以前が、グラIMソフhiCAおり、今の設計プ設計ノウ作られれ、これ

日建設

の未加課題が山恵を出の営業あわせべく邁ばなら資を代表

7～

日本電口学会長13年度第9月）の受結果を公事の受注14・5%増円。この内18・4%増円だった